

愛知の歩行者泣いている

表題は毎日新聞 1 月 6 日朝刊。14 年連続交通事故死ワーストの愛知県。この記事を読んで、背筋が寒くなる。信号のない横断歩道で、手を挙げて渡ろうとしても、大半の車は何もないかのように通り過ぎる。車が止まってくれると思うと、危険な目にあう。これが「自動車王国」愛知の悲しい現実。抜粋して紹介したい。

県警の発表では、昨年の愛知県の交通死亡事故は 207 件、死者 212 人で前年よりそれぞれ 6 件、1 人減。歩行中の死者が 82

人で最も多く、次いで自動車乗用中 56 人、バイク 43 人と続く。いずれも前年を上回った。死者の 55. 2% に当たる 117 人は 65 歳以上の高齢者で、その約半数の 60 人が歩行中だった。（昨年の今ごろ、私も横断歩道を歩行中に危険な目にあった）

死亡事故の原因でみると、愛知県は歩行者妨害による事故が多い傾向にある。死亡事故 207 件のうち、事故の責任がより重い第一当事者にこの違反があったのは前年比 1 件増の 29 件で約 14% を占め、全国最多だった 2015 年とほぼ同じ割合。警察庁によると、昨年 1～11 月の全国の死亡事故 3381 件のうち、歩行者妨害による事故は 218 件で全体の約 6% だった。歩行者妨害は、歩行者が横断歩道や横断歩道のない交差点を渡っていたり、渡ろうとしていたりする時に一時停止しない車両を対象とする交通違反。違反点数 2 点、普通乗用車なら 9000 円の反則金が科される。ただ、運転者の間では違反の認識が低いといい、日本自動車連盟（JAF）によると、昨年 8～9 月に全国 94 カ所の信号機のない横断歩道で約 1 万台の車を調査したところ、歩行者が渡ろうとしている時に一時停止した車両は 757 台で、1 割にも満たなかった。

愛知県警は近年、この違反の取り締まりを強化している。13 年までの取り締まり件数は年間 5000 件前後だったが、14 年は約 1 万 4000 件。15 年は約 1 万 5000 件を取り締まったが、なかなか事故が減らないのが現実だ。昨年 11 月、愛知県瀬戸市の信号機のない横断歩道で取り締まりを受けた 60 代女性は「一時停止しないと反則金まで取られるなんて知らなかった」、別の 40 代女性は「警察官に止められた時、なぜ止められたのか分からなかった」と語った。



(2017 年 1 月 12 日)